

多文化主義国家における家庭科教育 —カナダ・バンクーバー地区中等学校を例として—

渡瀬典子

岩手大学教育学部

Home Economics Education Under Multiculturalism Nation
-Cases of Secondary Schools in Vancouver School District-

Noriko WATASE, *Faculty of Education, Iwate University*

1. はじめに

2004(平成16)年度の「学校基本調査」(文部科学省)では、公立の小・中・高等学校、盲・聾・養護学校に在籍する外国人児童生徒数は約7万人で、バブル期を境にその全体数は減少傾向にある。その一方で、日本語を第一言語とせず、出身国の文化を背景を持つ子どもの数は増加傾向にあり、彼らの文化を尊重しつつ、日本の生活・日本語理解に関する指導が課題となっている¹⁾。日本国内で生活し、他国の文化を持つ児童生徒を対象とする研究は、教育社会学によるアプローチが主流であり²⁾、教科教育研究はあまり見られない。この背景には、日本以外の国で長く暮らした帰国子女あるいはニューカマー(1980年代以降に来日し、定住した外国人)の児童生徒が大都市圏や一部の地域に限定されており、全国共通のカリキュラム課題という認識をもちにくいことが挙げられる。

一方、諸外国に目を転じると、多民族国家である北米・ヨーロッパ諸国では、大量の難民・移民の流入によって国民の民族構成に大きな変動が起こっている。例えば、多文化主義(国家を形成する各民族の文化を尊重し、民族の違いで自由、平等、正義、公正、人間の尊厳を妨げない考え方)をとり、移民の受け入れにも比較的寛容だったカナダでは1990年代

以降トロント、バンクーバー等の大都市を中心にアジア系移民が急増した。2003年のカナダ市民権・移民省(Citizenship and Immigration Canada)³⁾の統計によると、今世紀に入り毎年20～25万人の移民者を受け入れており、2001年の国勢調査値ではバンクーバー(全人口約200万人)に居住する移民者74万人のうち約6割がアジア系移民である。これらの都市には、各民族が持つ生活文化を維持できるようなコミュニティ、生活資源の供給システムが構築されてきた。

ここで多文化主義国家における多文化教育について若干の説明を加えたい。「多文化」を構成する軸には「民族・人種、国籍」のほかに、ジェンダー、障害の有無、地域、年齢等の要素がある。そしてそれぞれの軸が、ある社会の中で複合的に関わりあい、存在している。恒吉はこのような状況の中で、多文化教育を「多文化の共存する社会(世界)において、文化的多様性を肯定し、教育のプロセス、かくれたカリキュラム、学校の権力構造、既存のカリキュラム、教材、教育理念や教育の実践や方法などを見直し、少数者を含む全ての学習者の学習を保障し、より公正な多文化社会の実現に向けた資質を育成、改革するプロセス、全ての学習者を射程に入れた教育」と捉えている⁴⁾。

多文化教育は多様な文化背景を持つ人々で構成される多文化(主義)国家で危急の教育課題といえるが、2002年にイタリアのベラジオで開催されたベラジ

(審査終了2006年5月16日)

〒020-8550 盛岡市上田3-18-33 (勤務先)

才会議では多文化的市民教育への(基本)原則と概念が提示されるに至っている⁵⁾。

日本では、急激な少子高齢化に伴い、将来的な労働力の確保という観点で移民の受け入れを積極的に進めようという意見もある。そのほか、グローバリゼーションの進展に伴い、私たちは日本国内に居ながらにして様々な文化に触れる機会が増えている。家庭科教育は児童・生徒の生活に関わるモノ・ヒト・コトを学習対象とし、その学習内容は多岐にわたる。また、学習内容の選定において国・地域社会さらには児童生徒の文化・制度的背景も大きく影響を与えるため、多文化主義下での家庭科教育実践を見ることは、将来の日本の教育を考える上でも示唆に富むと考えられる。

2. 目的及び方法

本報告は多文化主義をとるカナダにおいて、移民の流入が著しいバンクーバー地区を対象とし、多文化教育が中等学校の家庭科教育の中でどのように実践されているかに注目した。対象としたバンクーバー地区内の中等学校は18校で、1校の実業高校以外は普通科である。具体的には、①家庭科の開講科目、②実習教材の特徴を中心に言及する。

検討にあたり、バンクーバー市内にあるEric Hamber Secondary Schoolの実践、ブリティッシュコロンビア大学の教育実習生18名への聞き取り(2005年7,8月実施)等の結果を用いる。

3. 考察

1) ブリティッシュコロンビア州の教育制度

バンクーバー地区は、カナダの西端に位置するブリティッシュコロンビア州(以下、BC州と記載)の一都市である。そのためBC州が定める教育制度に則ってカリキュラムガイドラインが示されている。ここでは卒業に必要な科目・単位の大枠が示されているものの、課程認定されている科目は多数あり、学校・地域社会・生徒の実情に合わせて選択科目を設定することが可能である。家庭科はGrade8-12段階のApplied Skills(応用技能)という科目群に含まれる。Applied Skills(応用技能)は、必修科目だが商業、工業、情報に関する科目が併置され、家庭科を含めてその中から選択することになっている。そのため、全ての学校が家庭科に関する科目を開講しているわけではない。また、BC州は原則として7-5制をとるので、家庭科は中等学校(Secondary School)のみで設置されることになる。そのほか、BC州では一定の教育の質の保持、教師支援等のため、州の教育スタンダード、IRP(Integrated Resource Package)を定めている。IRPは「予想される学習成果(Prescribed Learning Outcomes)」に対応して、「指導戦略例(Suggested Instructional Strategies)」、「評価戦略例(Suggested Assessment Strategies)」、「推薦学習資料(Recommended Learning Resources)」が示されている。

表1 IRPの「予想される学習成果」に示された多文化主義的表現

領域	内容
食料資源	料理を準備するために、多様な文化の調理法を使う。(Home Economics8-10)
被服資源	様々な文化において使われている被服材料のデザインの要素に気づく (Home Economics8)。 様々な文化で衣服として使われているデザインの要素に気づく (Home Economics9)。 様々な文化に基づく衣服をデザインと機能の面から比較する (Home Economics10)。
家族学	様々な文化における青年の慣習を比較する (Home Economics11)。 社会の中で家族が直面している問題を文化的かつ世界的なレベルで認識する (Home Economics12)。 多様な文化における死、それに対する悲しみ等の慣習を認識する (Home Economics12)。
被服学	被服材料の使用に影響を与えてきた歴史的・文化的要素について認識する (Home Economics11)。 被服材料と衣服に対する文化的影響を認識していることを示す (Home Economics11)。 様々な文化の慣習や伝統における被服材料の役割を述べる (Home Economics12)。

Applied Skills(応用技能)枠組みでの家庭科科目に関しては「Home Economics8-10」,「Home Economics11-12」が提示されている。「Home Economics11-12」では,さらに食物学(Food Studies),カフェテリアトレーニング(Cafeteria Training),被服学(Textile Studies),家族学(Family Studies)の4領域に分けられ,教育目標,方法,教材がそれぞれ示されている。同州の教育法は各初等・中等学校にIRPを基盤としたカリキュラム構築を推奨する立場をとっている。

表1はIRPの「予想される学習成果」の記述の中で,多文化主義的な表現がなされている箇所の抜粋である。この表に現れるように,「Home Economics8-10」の段階では,技術的な側面から多文化主義へとアプローチし,後期中等教育にあたる「Home Economics11-12」では,抽象的かつ理念的な側面に焦点を当てていることがわかる。

2) バンクーバー地区での家庭科開講科目

次頁に示す表2はバンクーバー地区にある中等学校の家庭科開講科目状況である。18校のうち,家庭科に関する科目を置く学校は14校でおよそ8割の学校は家庭科科目を開講していることになる。次に,開講科目を見ると,最も基礎的なApplied Skills8(応用技能8)のみを置く学校はなく,様々な領域にわたる科目が複数開講されている。開講科目の領域は,IRPに提示されていた4領域(表2中の網かけ部分)のほかに,「心理学(Psychology)」,「観光学(Tourism)」など,日本の学習指導要領では学習内容の枠組みとして表立って出てこない学習領域が示されている。「心理学」では,E,G,H,L校の開講科目が示すように,心理的側面に立脚した家族・個人のストレスマネジメント,F校のように,子どもの発達心理に関する科目など,日本の家庭科教育でも断片的に扱われている学習内容が心理学という枠組みで再構成されている。「観光学」はBC州の基幹産業である観光業と対応し,キャリア準備(Career Prep.)科目の基礎科目として多くの学校で開講されている。そして,新たに「観光学」に関するIRPの草稿が2006年の3月に出され,教育スタンダードの内容が整えられているところである。

実際に開講された「観光学」の授業のアウトラインを見ると,観光学の歴史,理論のほか,フィール

ド調査,ゲストスピーカーの講演,生徒による調査の発表会,実地体験等が生まれ,BC州の家庭科に関する科目のひとつの特徴となっている。開講科目は全て選択科目であるが,生徒自身が関心を持った領域を深め,スキルを積み重ねるために段階付けられた科目を履修することができる。

3) 多文化教育と家庭科学習教材

①被服学(Textile Studies)の授業

多文化教育では,児童生徒及び彼らを取り巻く文化集団の特性・視点を生かした教材・カリキュラム開発が必要とされる。そこで本項では,家庭科の実習教材について具体的にどのような教材が取り上げられているかを見る。はじめに, Eric Hamber Secondary School(全校生徒数1680名)の被服学の授業実践について言及する。Eric Hamber Secondary Schoolはバンクーバー地区中央部に位置する中等学校で,7~8割の生徒がアジア系の移民家族を出自とする。この学校の家庭科開講科目は表中のF校であり,被服学関連の授業の種類が豊富なことが特徴的である。また,被服学を履修した生徒は,自分が製作した作品を着用して,ファッションショーへの企画・参加することが授業に組み込まれている。生徒は10年生のときのオリジナルバッグづくりをはじめ,ブラウス,スカート,カクテルドレス,さらには自分でデザインしたドレスの創作を12年生にかけて行う。下に示した写真は,このファッションショーの中で披露された「Fashion Design12」を履修した生徒によるドレス創作の一例である。ドレスのデザインを見ると,生徒の民族的背景を反映してかチャイナドレスに似たデザイン,素材を使用する生徒が多く見受けられた。その

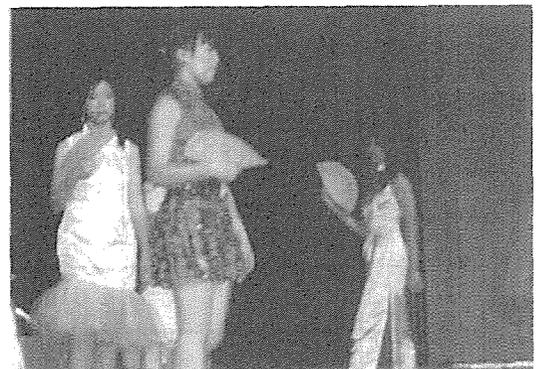


表2 バンクーバー地区 中等学校家庭科の開講科目例(2005-2006年)

学校	家庭科の有無	Applied Skills8	Food Studies	Cook Training※	Textile Studies	Family Studies	Psychology	Tourism	その他	Career Prep.科目
A	○	○	Festival of Foods10, Culinary Arts11, Global Gourmet12, Haute Cuisine12B	Cook Training 11A,B,12A-C	Textile Arts and Design 10,11,12			Tourism11,12		Hospitality./Foods, Tourism, Hotel Management, Work Experience12A
B	×									
C	○	○	Food Focus9/10,Food Studies11,Foods and Nutrition11,12		Clothing Focus9/10, Textile Arts and Crafts10, Intro Clothing and Textiles11, Clothing and Textiles 11.12AB	Human Services11,12	Psychology11, Personal Psychology11, Social Psychology12	Hospitality Tourism		Hospitality Foods, Fashion Design
D	○		Food Studies10,Foods for Celebration and Entertainment11,Gourmet Foods12	Cook Training 11A-C,12A,12B	Textiles Arts and Crafts10, Textile Studies10,11,12	Family Studies12		Tourism11,12	Innovated Technology 11	Cook Training, Tourism
E	○	○	Home Economics10, Food Studies11,12, Culinary Arts		Textiles10,11,12, Fashion Design11,12		Family Studies (Psychology Focus) 11,12	Tourism11,12	Interior Design11, Animation11,Animation 12B - Digital Modeling and Design, Digital Publishing10.11	
F	○	○	Foods Fundamentals9/10, 11,Culinary Arts11, Global Gourmet	Chef on the Run, Bakery&Pastry Arts 10	Fashion Sewing 10,11,12, Fashion Design12A,12B, Fashion Design& Merchandising12A, Fibre Arts10	Family Sociology12	Social Psychology11, Early Childhood Developmental Psychology	Hospitality and Tourism Skills	Home Economics Lab Assistant	Career Explorations11, Work Experience12
G	○		Home Economics10 :Foods, Food Studies11,12	Culinary Arts11A-C,12A-C	Home Economics10: Textiles Textile Studies11,12	Human Services11,12	Social Psychology11, Family Psychology12	Tourism11,12	Food&Beverage Server Training (Hospitality/ Tourism12)	Tourism,Hospitality, Fashion Design, Culinary Arts, Human Services, Social/Family Psychology, Mentorship, Health Sciences
H	○	○	Foods&Nutrition10,11,12,Introductory Foods11		Clothing&Textiles10, Introductory Clothing &Textiles11, Clothing &Textiles11.12A,12B		Family Psychology11,12	Tourism11,12, Air Travel&Tourism12		
I	○	Home Economics 8	Food&Nutrition10,11,12, Introduction to Food and Nutrition11		Clothing&Textiles 10,11,12	Family Management 11,12				
J	○	○	Home Economics10-Food Focus.Foods11,12		Home Economics10-Focus Textile Arts.Textile Arts12				Home Economics11	
K	×									
L	○	○	Food Studies9, Foods10,11,12		Clothing and Textiles9, Textiles10,11,12		Psychology11(Family Management), Advanced Placement Psychology12			
M	○	○	Foods and Nutrition10, Food Studies11,12, International Food Studies11		Clothing & Textiles10, Crafts Design11, Textile Arts11, Textile Studies 11.12A,12B		Social Psychology11/12	Tourism11,12		
N	○		Home Economics10, Foods, Food Studies11,12	Cooks Training 11A-C,12A-C	Home Economics10 Textiles, Textiles11,12, Textile Arts&Crafts /Stage craft11		Philosophy12, Psychology12	Tourism11,12		Fashion&Design 11,12A,12B
O	×									
P	○	○	Foods and Nutrition 10.Foods11,12		Clothing and Textiles 10, Textiles11,12					
Q	○	○	Foods&Nutrion10, Foods11,12		Clothing&Textiles10, Textiles11,12A			Tourism12,12B	Hairdressing11,12, Mentoring12	Fashion Design 11,12A,12B, Cook Training 11A-C,12A-C, Human Services 11A,12A, 12B, Work Experience
R	×									

※ IRP では「カフェテリアトレーニング」の名称だが、バンクーバー地区ではこの表現がとられている。

ほか、浴衣を作った生徒もあり、生徒の民族構成を映し出す作品群が展開された。この授業では、自分が属するエスニックグループの文化の尊重といった多文化主義的特徴をもつ実践例といえよう。

②食物学 (Food Studies) の授業

次に、バンクーバー地区の中等学校家庭科で実践された調理実習教材について述べる。de Zwartによると、20世紀初頭にBC州等で用いられた家庭科教科書、“Girls’ Home Manual (1913)”, “Foods, Nutrition and Home Management(1936)”に見られる家庭科教育内容はイギリス文化の紹介のみにとどまり、他民族への視点は”他のもの (Other)”としてしか認識されていなかったことが指摘されている⁶⁾。その一方で、現在BC州の食物学の授業でよく使用されているテキスト『Food for Today』を見ると、全55章のうち8章が「Global Foods」という枠組みで世界の料理に関する内容が描かれている⁷⁾。前項に示したように、食物学の開講科目をみても、A校、F校 (Global Gourmet) ,M校 (International Food) など、世界の食について専門的に学ぶ科目が見られる。

実際の調理実習題材についてブリティッシュコロンビア大学の教育実習生が実施した実践例を見ると、食物の調理特性と関連させたクッキーやケーキなどの洋菓子製作は調理実習に携わった学生のほとんどが実施していたが、イギリス文化以外の調理題材を扱っていたのは、寿司 (3校)、サモサ(1校)等のみであり、これらの題材を取り上げていたのはアジア系の学生だった。教育実習生が13週間という限られた期間の中で取り組んだ実践であり、単純に一般化はできないものの、調理実習の題材設定は教師が持つ文化的背景に影響を受けやすいことが推察される。

4. まとめ

本報告では、多文化主義国家であるカナダのブリティッシュコロンビア州バンクーバー地区を例にとり、家庭科教育の開講科目、実習題材から多文化主義の影響を見てきた。カナダでは地域によって住民のエスニックグループの構成が全く異なるが、西部～中央部の大都市にアジア系移民が集中するという傾向が見られる。本稿で取り上げた中等学校はその

中でもアジア系移民を出自とする生徒が多く、現代のカナダの一側面を象徴するともいえる。

ブリティッシュコロンビア州の教育スタンダード、IRPの中では、民族を構成する多種の文化に対し、技術的側面から各々の文化にふれる機会が設定されている。Eric Hamber Secondary Schoolでは、生徒の創作という場面で各人のエスニックアイデンティティが表出され、家庭科のIRPがねらう目標を達成するための学習方法がとられていた。一方、調理実習では、教師側が題材を選定する場合、教師のエスニックアイデンティティの影響が現れた。以上のことから、個々の生徒が持つ文化をどのように授業で出会わせ、学びを深めていくか、教材として何を取り上げるかが多文化主義国家であるカナダ大都市圏での授業開発の課題といえよう。さらに、1970年代以降北米を中心に進展したグローバル教育 (脱国家的な地球規模での資質・能力形成) の視点を入れた家庭科教育内容の検討が示唆されており⁸⁾、新たな展開が図られている。

話を日本の家庭科教育について転じると、家庭科教育で児童生徒に育成する能力を示すキーワードに「生活実践力」の育成⁹⁾、「生活主体者」の育成¹⁰⁾が挙げられている。「生活実践力」とは、「学習者の家庭生活を中心として現実生活世界の中で、福祉および自己実現を目指して、生活環境や生活文脈を熟慮して、より適切な生活行為を遂行する能力」と福田によって定義されている。また、「生活主体者」について荒井は「自分や家族の生活を自立的に営むことができ、生活課題の改善や解決に主体的に取り組むとともに生活の主権者として課題の社会的な解決への自覚と実践力を持ち、かつ平等を基本として、家族や他の人と共生・連帯することができる生活者」と説明している。これらの目標は他の文化的背景を背負い来日したニューカマーの児童生徒にとっても必要な能力であり、普遍的な性格を持つ能力といえる。

なお、本報告内容の一部はブリティッシュコロンビア大学教育学部カリキュラム学科 (CUST, Department of Curriculum Studies) Dr. Linda Peterat及びDr. Gale Smithのご協力によるものである。この場を借りて感謝申し上げる。

引用文献

- 1) 文部科学省. 学校基本調査 .2005
- 2) 例えば, 志水宏吉, 清水睦美編著. ニューカマーと教育: 学校文化とエスニシティの葛藤をめぐって. 東京, 明石書店, 2001, 413p. など
- 3) Citizenship and Immigration Canada. Facts and Figures 2003. 2005, 107p.
- 4) 恒吉僚子. “教育の国際化と多様な「多文化教育」”. 梶田孝道編著. 国際化とアイデンティティ. 京都市, ミネルヴァ書房, p.61-89
- 5) ジェームズ .A. バンクス他. 民主主義と多文化教育. 平沢安正訳. 東京, 明石書店, 2006,145p.
- 6) De Zwart, M.L. White Sauce and Chinese Chews : Recipes as Postcolonial Metaphors. In Carter, S. et.al (Eds.) Unsettles Pasts: Re-conceiving the west through women’s history. Calgary ,AB: University Calgary Press.2005
- 7) Kowtaluk, H. Food for Today. Peoria, IL, Glencoe/McGraw-Hill, 2006, 768p.
- 8) Smith, G.A. Conception of Global Education: A Home Economics Education Imperative. Canadian Home Economics Journal 43(1).1993.21-26 など
- 9) 福田公子. “家庭科教育の意義”. 教育実践力をつける家庭科教育法. 多々納道子, 福田公子編著. 岡山, 大学教育出版, 2005, p.1-11
- 10) 荒井紀子. 生活主体を育む 未来を拓く家庭科. 東京, ドメス出版, 2005, 269p.